

第 49 回 役員会 議事要録

日 時：平成 25 年 10 月 29 日(火)15：00～16：30

場 所：小倉アミュプラザ7階 小倉サテライトキャンパス第1教室

出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、松尾理事、梶原理事、
井村理事、中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長、王マネジメント研究科長

議案

- 1 マレーシア・サラワク大学との覚書締結について
- 2 オーストラリア・ニューカッスル大学との覚書等の締結について
- 3 創立 70 周年記念事業の準備について
- 4 平成 25 年度予算の財源活用について

報告事項

- 1 教員の採用について
- 2 認知度向上プロジェクトの進捗及び今後の進め方について
- 3 認証評価と第 3 期中期計画策定に向けた取り組みについて
- 4 マネジメント研究科の取り組みについて
- 5 サテライトキャンパスの空き時間の活用について
- 6 教職員組合の地方労働委員会へのあっせん申立てについて

議案 1 マレーシア・サラワク大学との覚書締結について

議案 2 オーストラリア・ニューカッスル大学との覚書等の締結について

<質疑応答>

- 国際交流に係る経費はどこの予算か。
- 国際交流事業の予算である。
- ニューカッスル大学とサラワク大学とで交流の違いはあるのか。
- まだ包括協定の段階なので、交流事業の具体的な中身はこれから詰めていく予定である。
- M o Uにしては内容が具体的すぎないか。
- 先方の書式に本学が合わせて作成したのがこうなった。通常、ここまで具体的なものではない。
- 協定の期間が 5 年というのは記載してあるのか。
- それぞれの協定に明記してある。

議案 3 創立 70 周年記念事業の準備について

<質疑応答>

- 記念事業は別会計なのか。
- その予定だが、検討中である。アジア未来会議に関しては、経費の大部分を渥美財団から支出すると聞いている。
- 留学生と日本人の交流スペースなどを整備して、留学生会館の存在価値を高めるとよい。
- 概算の話ではあるが、国家公務員北方合同宿舎跡地を買い取り、解体して新築するとなれば合計 5 億ほどかかるが、改修するとなれば合計約 2 億 5 千万と半分くらいで済む。昨今の改修・リノベーション技術を考えると何とかできるのではないかと考えており、費用をかけずに行う事ができれば良いと思う。

議案4 平成25年度予算の財源活用について

<質疑応答>

- 学校法人法では予算の流用が認められない所が多いが、地方独立行政法人法では問題ないのか。
- 市の方には確認しており、問題はない。

報告1 教員の採用について

<質疑応答> なし

報告2 認知度向上プロジェクトの進捗及び今後の進め方について

<質疑応答>

- 具体的には、このプロジェクトで何の成果が出ているのか。
- 今のところは現状を調査している段階である。これを踏まえた上で大学が何を強みとするかを導き出し、どうPRしていくかをまとめて形にしていきたいと思っている。70周年というのは契機になるので、一つの武器として照準を合わせてPRしていきたい。
- やれることはどんどんやらないといけない。教育の成果や実績はアピールする必要がある。
- 入試制度が変わると偏差値等の評価方法も変わる可能性があるが、いずれにしても大学の知名度などは大事な部分として残っていくと思うので、余力があるうちに力を注いでいきたいと思っている。
- 学生も含め、大学の個性をどう出して行くかが問題である。例えば、著名になった卒業生の活用や、スポーツに力を入れてPRする等である。地元では光っている卒業生が意外に多いが、そこから先に広がっていかない。
- 中核になる学部を作ってはどうか。例えば地域創生学群は地方の公立大学で参考にしたいという所が出てきており、全国的な一つのモデルになると思う。他にない特徴を伸ばしてアピールするのも一つの方法である。

報告3 認証評価と第3期中期計画策定に向けた取り組みについて

<質疑応答>

- 認証評価というのは大学全体の評価なので、上手くやるとPRの材料となり大学の認知度向上に大きく貢献する。しかし、逆の場合は悲惨な状況になる。心配している点は体制である。教員は前回の評価の時と変わらないが、職員は大半が入れ替わっている。しかもプロパー職員と市の派遣職員の割合が大きく変わっており、プロパー職員のトレーニングを行わないといけない。グローバルや大学間連携等の文科省からの事業も28年度に終了を迎え、そして70周年事業も控えていることから、多くの職員が認証評価だけに時間を割けない状況なので、体制をかなり整えていかないと乗り越えることができないと考えている。具体的な動きは来年度からとなるが、事務局側は年内にも体制を作る必要があり、場合によっては市とも調整してもらう必要がある。

報告4 マネジメント研究科の取り組みについて

<質疑応答>

- 中華ビジネス講座は近年の中国との関係からか受講生が減ってきてはいるが、中国だけでなく台湾・シンガポール等のアジアへ繋げるには必要な講座なので、続けることが重要である。
- 香港大学との提携はどうなっているのか。

- 当初は2年間の予定だったが、香港大学から3年でやりたいということになった。純粋な学術調査ではなく、地域産業界の活性化につながる調査なので、本学にとっては良い機会だと思っている。

報告5 サテライトキャンパスの空き時間の活用について

<質疑応答>なし

報告6 教職員組合の地方労働委員会へのあっせん申立てについて

<質疑応答>なし